（目標収量:250kg/10a）

令和6年産　黒大豆栽培こよみ（香川黒１号）

発行　香川県農業協同組合
監修　香　川　県

◎栽培履歴を記帳し、提出しましょう

香川黒１号の特性

香川農試（令和1～5年産）

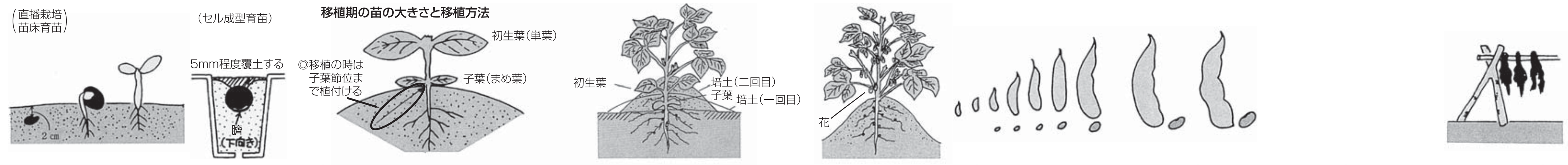
早晩性	晩
播種期	6月25日
移植期	7月5日
開花期	8月12日
成熟期	11月27日
主茎長	55.4cm(無摘芯)
主茎節数	15.8(無摘芯)
花色	紫色
熟莢色	褐色

栽培のポイント

1.健苗の適期移植
2.中耕培土の実施
（第1本葉節の高さまで2回）
3.病害虫の適期防除を必ず行う
4.開花期以降は干ばつ時に畦間灌水
（特に干ばつ気味の場合は、7～10日ごとに灌水）
5.適期収穫
（莢が褐色になった頃）

◎早期の収穫・乾燥に努め年内出荷を図ろう

区分＼月	6（上・中・下）	7（上・中・下）	8（上・中・下）	9（上・中・下）	10（上・中・下）	11（上・中・下）	12（上・中）
生育相	播種期	移植期	開花期	莢伸長期	子実肥大・登熟期	収穫期	
主な作業	酸度矯正 種子準備 種子消毒 播種 基肥施用 耕起・畦立	移植 補植 フェロモントラップの設置 中耕培土（一回目） 摘芯 中耕培土（二回目）	灌水 耕種防除 確認防除 防除（一回目）	防除（二回目） 防除（三回目）	確認防除	収穫 予備乾燥	脱粒 仕上げ乾燥 調製 出荷
栽培の要点	条間一四〇cm～一五〇cmとし、畦立てとする。 施肥基準により、耕起前に施用する。 セル成型育苗：一二八穴のセルトレイへ一粒ずつ播種する。 苗床育苗：五～七×五cm間隔に一粒ずつ播種する。 ベンレートT水和剤20を種子一kgに対して四g粉衣する。 セル成型育苗の場合一〇a当たり二～二・五kg。毎年、種子更新。 苦土石灰を一〇a当たり一〇〇～一五〇kg施用する。	本葉五枚頃、第一本葉節の高さまで。 過繁茂が予想される場合は、実施する。 本葉三枚頃、初生葉節まで。 ハスモンヨトウの誘殺・発生予察を始める。 できるだけ早く実施する。 一、四〇〇～二、四〇〇株を確保する。植付けの深さは子葉節まで。	除 開花がほぼ終了した頃にカメムシ類（莢害虫等）、ハスモンヨトウの防除 ハスモンヨトウの発生状況に注意し、発生が増えてきたら確認防除を行う。 ハスモンヨトウによる白変葉（初期被害葉）を摘みとる。 早朝に葉のしおれがもどらない時には灌水。（溝に水を走らせ、すぐに排水する。）灌水は開花から登熟まで適宜実施。	カメムシ類（莢害虫等）、紫斑病等の防除 カメムシ類（莢害虫等）、ハスモンヨトウ、紫斑病等の防除	状況に注意し確認防除を行う。 周囲の水稲収穫後は、カメムシ類の発生	子実水分一六％～一八％。降雨に当たらないようにする。 全粒が黒色となるまで、一〇～一五日間架干しする。 除去した後、抜き取る。 葉が黄変し、莢が褐色に変わった時、葉を	早期出荷に努める。 栽培履歴を提出。 除くとともに、粒径別に分ける。 選別機は共同利用する。莢雑物や未熟粒を 直射日光を避け、陰干し乾燥する。 脱粒機は共同利用する。



セル成型育苗のポイント

トレイの種類	128穴トレイ
トレイ数	10aあたり20枚
育苗培土	10aあたり培土80～100ℓ
臍の向き	下向きに播く
覆土	覆土の厚さ5mm
育苗日数	10日
灌水	朝夕2回
雨よけ	出芽終了まで雨にあわさない

施肥基準

◎大豆専用肥料「まめちゃん」(5-14-14)使用の場合 (kg/10a)

肥料名	基肥	成分量 N	成分量 P	成分量 K
堆肥	500			
まめちゃん	30～40	1.5～2.0	4.2～5.6	4.2～5.6
苦土石灰	100～150	―	―	―

「まめちゃん」は、大豆に必要なN、P、Kをバランス良く配合された肥料。
※施肥量は土壌の肥沃度により増減する。

◎高度化成402(14-10-12)使用の場合 (kg/10a)

肥料名	基肥	成分量 N	成分量 P	成分量 K
堆肥	500			
高度化成402	10～14	1.4～2.0	1.0～1.4	1.2～1.7
PK2号	15～20		3.0～4.0	3.0～4.0
または けい酸加里	40			8.0
苦土石灰	100～150	―	―	―

※施肥量は土壌の肥沃度により増減する。

移植本数

条間×株間	本／10a
1.4m×0.30m	2,400
1.4m×0.40m	1,800
1.4m×0.50m	1,400

条間×株間	本／10a
1.5m×0.28m	2,400
1.5m×0.37m	1,800
1.5m×0.47m	1,400

病害虫防除　農薬散布の際は飛散防止に努めましょう

○　記載している薬剤の使用基準は令和6年3月31日現在のものであり、今後変更になる場合があるので、使用する際は薬剤のラベルをよく読んで、ラベルの記載内容どおりに使用してください。
○　農薬登録上えだまめとして出荷しないこと。

必須防除　　防除記録をつけましょう

水和剤・水溶剤・乳剤による防除（散布水量:200～300ℓ/10a）、農薬の混用は2種類までとする。

防除時期	対象病害虫	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期／回数	使用月日
播種前	紫斑病	ベンレートT水和剤20	4g/種子1kg(粉衣)	播種前/1回	月　日
8月下旬	ハスモンヨトウ	プレオフロアブル	1,500倍	収穫7日前まで/2回以内	月　日
	カメムシ類	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	月　日
9月上旬～9月中旬	カメムシ類	トレボン乳剤	1,000倍	収穫14日前まで/2回以内	月　日
	ハスモンヨトウ	プレバソンフロアブル5	4,000倍	収穫7日前まで/2回以内	月　日
	紫斑病	トップジンM水和剤	1,000倍	収穫14日前まで/4回以内	月　日
9月下旬	カメムシ類	スミチオン乳剤	1,000倍	収穫21日前まで/4回以内	月　日
	紫斑病	トップジンM水和剤	1,000倍	収穫14日前まで/4回以内	月　日

9月下旬以降もハスモンヨトウ、カメムシ類の発生状況に注意し、発生が増えてきたら確認防除を行う。カメムシ類のうちミナミアオカメムシ、ハスモンヨトウの発生消長については香川県病害虫防除所ホームページで確認できます。

確認防除

対象病害虫	耕種防除	防除時期	薬剤名	希釈倍数・使用量	使用時期／回数	使用月日
ネキリムシ類	・ほ場内や周辺の雑草を除去する	播種時又は定植時	ネキリエースK	3kg	播種時～本葉2葉期/2回以内（土壌表面株元処理）	月　日
白絹病	・連作をしない　排水を良くする ・被害株は抜き取り処分する	7月中旬	リゾレックス水和剤	1,000倍	収穫14日前まで/3回以内（土壌灌注3ℓ/㎡）	月　日
アブラムシ類（モザイク病）	・前年発生したほ場は種子に使用しない	発生初期	アグロスリン乳剤	2,000倍	収穫7日前まで/3回以内	月　日
ハスモンヨトウ	・初期被害葉を摘除する	発生初期	プレオフロアブル	1,500倍	収穫7日前まで/2回以内	月　日
			プレバソンフロアブル5	4,000倍	収穫7日前まで/2回以内	月　日
			ディアナSC	2,500倍～5,000倍	収穫前日まで/2回以内	月　日
ハダニ類	・周辺雑草や作物残渣等を除去する	発生初期	ニッソラン水和剤	2,000倍～3,000倍	収穫7日前まで/2回以内	月　日
カメムシ類	・ほ場周辺も含めて除草を徹底する	発生初期	スタークル顆粒水溶剤	2,000倍	収穫7日前まで/2回以内	月　日

※ハスモンヨトウ対象にディアナSCを散布しているほ場ではシロイチモジヨトウの発生が少ない。

雑草防除　農薬散布の際は飛散防止に努めましょう

防除記録をつけましょう

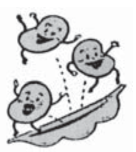
雑草防除は原則として中耕培土によるが、薬剤を使用する場合は次の基準による。

薬剤名	対象雑草	使用方法	使用時期／回数	10a当り使用量	10a当り散布水量	使用月日
バスタ液剤※2	一年生雑草	雑草茎葉散布	播種前(雑草生育期)収穫28日前まで(畦間処理:雑草生育期)／3回以内	300～500mℓ	100～150ℓ	月　日
ザクサ液剤※2	一年生雑草	雑草茎葉散布	播種前(雑草生育期)収穫28日前まで(畦間処理:雑草生育期)／3回以内	300～500mℓ	100～150ℓ	月　日
ラウンドアップマックスロード	一年生雑草	雑草茎葉散布	耕起前又は出芽前まで(雑草生育期)収穫前日まで(畦間処理:雑草生育期)／2回以内	200～500mℓ	50～100ℓ（少量ノズルの場合は25～50ℓ）	月　日
ポルトフロアブル	一年生イネ科雑草（スズメノカタビラを除く）	雑草茎葉散布	雑草生育期(イネ科雑草の3～10葉期)(収穫30日前まで)/1回	200～300mℓ	100ℓ	月　日

※2 バスタ液剤とザクサ液剤の使用回数は合わせて3回以内である。

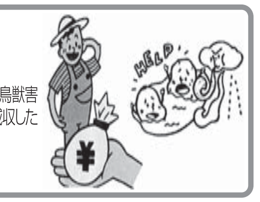
NOSAIの大豆共済

実どり用大豆（白大豆、黒大豆ごと）を5a以上栽培している農家であれば加入できます。



共済金

気象上の災害・病虫害・鳥獣害などによって、大豆が減収した場合に支払われます。



掛　金

掛金は、55%を国が負担しますので、栽培農家の方の負担は45%です。

収入保険

青色申告を行っている方は、加入をお勧めします!
自然災害はもちろん、あらゆる原因による、販売収入の減少をワイドに補償します。

安心のネットワーク NOSAI

＝大豆の共済＝
お申込み・お問い合わせはお近くのNOSAIへ。

2024年4月作成